# 特別支援教育リーダー養成プログラム開発

本生涯発達研究所は、2013年度から瀬戸市学校教育課とこども家庭課(瀬戸市発達支援室)と共同で「特別支援教育リーダー養成プログラム開発」事業を行っている。そのまとめとして、2015年10月12日に、日本LD学会第24会大会(福岡国際センター)自主シンポジウムで発表した資料を以下に掲載する。

# 瀬戸市における特別支援教育リーダー養成

――大学との連携・協働の試み――

企 画 者:山本 理絵(愛知県立大学)

田中 良三 (愛知県立大学名誉教授)

司 会 者:田中 良三 (愛知県立大学名誉教授)

話題提供者:山本 理絵(愛知県立大学)

藤戸 環 (瀬戸市教育委員会)

加藤 由美子 (瀬戸市こども家庭課・発達支援室)

指定討論者:三浦 光哉(山形大学)

米田 和子 (NPO 法人ラヴィータ研究所)

### 【企画の趣旨】

愛知県立大学生涯発達研究所では、これまで、地域の発達障がい児の支援として、県及び近隣の市町村と連携し、「発達障害フォーラム」、スクールボランティア派遣・養成研修、オープンカレッジ、巡回相談等を実施してきた。今後はさらに、保育園・幼稚園、学校など現場に根ざして活躍できる特別支援教育におけるリーダー的人材養成が求められる。

この実現をめざし、本研究所と瀬戸市教育委員会学校教育課・こども家庭課(発達支援室)が連携・協働して「特別支援教育リーダー養成プログラム開発研究会」を設置し、共同研究を進めてき

た。試行的に「特別支援教育リーダー資格認定課程」を設け、2013年度は「第一課程」、2014度は「第二課程」、2015年度は「第三課程」の各プログラムを作成・実施し、この3年間の研究に基づき、特別支援教育リーダー養成プログラムを完成させる予定である。

このシンポジウムでは、今後の特別支援教育の 充実・発展の課題として、市町村において特別支 援教育を担いうる教職員をどう養成していくのか ということが問われている今日、愛知県立大学と 瀬戸市との連携・協働の取り組みを通して、この 問題について検討する。

#### 【話題提供】

# 本学と瀬戸市との特別支援教育リーダー養成カリキュラムの研究

### 愛知県立大学 山本理絵

### 1. 共同研究・事業の経緯

愛知県立大学は、平成10年度に現在の長久手市に移転し、隣接する瀬戸市教育委員会をはじめ、小中学校、幼稚園、保育所等と、教育・研究において連携・協力関係を築いてきた。特別支援教育関係では、以下のような取組を行ってきた。

- ・平成16年:大学と瀬戸市が学生ボランティア活動に関する協定を結び、小中学校にボランティア活動に行くようになる(スペイン学科等の学生も、外国籍児童生徒の多い学校で活動する)。
- ・平成18・19年度: 文部科学省教員養成GPによる連携(シンポジウム等)
- · 平成 20 年度~:特別支援教育巡回相談

本学教員および生涯発達研究所研究協力員が瀬戸市教育委員会・発達支援室と連携して小中学校の特別支援教育巡回相談を実施し、巡回相談に関わっている教員による「発達障がい支援研究会」を行い、巡回相談の状況についての意見交換を行っている。

・平成22年度:大学主催の「発達障がい支援スクールボランティア研修講座(全3回)」に瀬戸市教育委員会の協力を受ける。

特別支援教育に対する社会の期待が高まるにつれ、幼稚園や保育園、小中学校の現場で、直接、支援が必要な幼児・児童生徒に対して適切な指導ができる人材、また、現場にいながら同僚の保育士・教諭等に対して指導・援助ができる特別支援教育のリーダー的人材がいっそう求められている。しかし現場を見ると、保育園や幼稚園・小中学校には、発達障害に的確に対応するような力量を持つ保育士や教諭、そして同僚に指導・援助が

できるような特別支援教育のリーダー的人材は決して多くなく、また、そうしたリーダーを養成しようにも、現場の保育士や教諭にとって、集中して専門的な研修を受け、実践力を身につける機会も時間も十分ないのが現状であった。保育士・教諭の世代交代が進み、ベテランの保育士・教諭がますます減少していく中、大学が巡回相談をするだけではなく、特別支援教育のリーダー的人材の育成は、これからの瀬戸市の特別支援教育にとって、早急に解決すべき大きな課題であると考えた。この課題を解決する試みとして、愛知県立大学

生涯発達研究所が主催となり、学校教育課とこども家庭課(瀬戸市発達支援室)が協力して「特別支援教育リーダー養成プログラム開発」事業に取り組むことにした。具体的には、小中学校の教諭、幼稚園・保育園の教諭・保育士が、ともに研修を受け、修了後には「特別支援教育リーダー」としてそれぞれの立場で特別支援教育の推進者となり、発達支援室を含めた三者で連携を図りながら瀬戸市の特別支援においてリーダーシップを発揮することを目指している。

# 2. 特別支援教育リーダー養成講座の内容

### (1) 受講者の条件

愛知県立大学生涯発達研究所が瀬戸市・教育委員会と連携・協働してプログラムを開発している「特別支援教育リーダー養成講座」の受講生の条件は、以下である。

- ①瀬戸市の幼稚園・保育園・小中学校の教諭・ 保育士として7年間以上在職している方
- ②特別支援教育リーダーを目指し、将来瀬戸市の幼稚園や保育園、小中学校の現場で活躍しようという強い意志があり、所属長の推薦のある方
- ③年間8回(各3単位、全24単位)の講座の うち6回以上出席(欠席分はレポートを提出) できる方。
- ④講座を含め、年間30単位以上取得できる方。 (講座以外は、特別支援教育に関係する講演 会・シンポジウム・学会への参加を単位とし

#### て換算します)

1回の講座は3時間で、一年間に8回の講座と、その他、関係する講演会・シンポジウム・学会等に6時間以上参加することをもって一課程としている。募集人数は、「第一課程」15名、「第二課程」は第一課程受講者を含んで20名、「第三課程」は第二課程と同じ受講者とした。

## (2) 講座の内容

「第一課程」は、講義(特別支援教育・発達障がい・ 巡回相談に関する総論、瀬戸市における特別支援 教育の現状と課題)と、受講者の事例による事例 検討(保育園・小学校・中学校)を中心に行った。 毎回、60分以上の討論を取り入れ、振り返りレポート記入に30分をとった。 「第二課程」は実習・見学を多く取り入れ、乳幼児期から学童期の発達をおさえる講義の後、療育施設や特別支援学校での体験研修、保育所等療育支援事業(巡回相談)や小学校特別支援学級見学研修と、事例検討(保育園・小中学校)を行った。「第三課程」では、中学校特別支援学級やジョ

「第二課程」では、甲字校特別支援字級やショブスクール、公教育以外の教育(見晴台学園)の見学研修、瀬戸特別支援学校での体験実習を行い、講義として、ユニバーサルデザインの授業づくり、通級指導教室や通常の学級における問題点を取り上げる。

受講者には毎回の小レポートに講師からのコメントを返し、1年間のまとめレポートを提出してもらい、次年度の講座への要望等のアンケートをとり、次の課程のプログラムを検討してきた。

### 〈第一課程〉

開催日	講師等	内容等
5月18日 (土)	田中良三 (愛知県立大学客員共同研究員)	開校式 ①特別支援教育・発達障がい・巡回相 談 (総論)」
6月22日(土)	山本理絵 (愛知県立大学生涯発達研究所所長)	②「授業のユニバーサルデザイン化と 幼保小連携」
7月27日 (土)	堀尾良弘 (愛知県立大学教授・臨床心理士)	③「中学校における発達障がい生徒の 理解と支援」
9月14日 (土)	藤井安規 (瀬戸市立幡山西小学校教頭)	④「瀬戸市における特別支援教育の現 状と課題」
11月9日 (土)	水野潔 (瀬戸市発達支援室発達支援相談員)	⑤「発達支援室から見た特別支援教育 の課題」
12月14日 (土)	山本理絵・加藤由美子 (元瀬戸市発達支援室室長)	⑥「事例検討(保育園)」
1月11日(土)	宇野美岐子 (特別支援教育士・津島西小)	⑦「事例検討(小学校)」
2月15日 (土)	松井京子 (特別支援教育士・阿久比中)	⑧「事例検討(中学校)」 閉校式(第一課程修了書授与)

※ 時間は、毎回13:30~16:30

#### 〈第二課程〉

開催日	担当講師等	内容等
5月24日(土)	田中良三(愛知県立大学名誉教授)	開校式 ①「特別支援教育・発達障がい・巡回 相談(総論)」
6月14日 (土)	三山 岳 (愛知県立大学講師)	②「乳幼児期から学童期の発達」

# 生涯発達研究 第8号 (2015)

8月4日 (月)~8日 (金) ※ いずれか1日	長江啓子(のぞみ学園園長)	③のぞみ学園療育体験研修(複数に分かれて) 9:30~12:30
8月26日 (火)・27日 (水) ※ いずれか1日	澤井 香(発達支援室長)	④保育所等療育支援事業(巡回相談) 9:30~15:30
開催日	担当講師等	内容等
11月11日 (火)・12日 (水)・18日 (火)・19日 (水)・21日 (金) ※ いずれか1日	藤戸 環(学校教育課専門員)	⑤小学校特別支援学級見学研修 学校・時間は未定
12月9日 (火)・10日 (水)・ 12日 (金) ※ いずれか1日	彦坂真紀 (春日台特別支援学校地域支援部)	⑥春日台特別支援学校 体験研修(複数に分かれて) 12:30~15:30
1月24日(土)	山本理絵 (愛知県立大学教授)	⑧「事例検討(保育園)」
2月21日(土)	三山 岳(愛知県立大学講師)	⑧「事例検討(小中学校)」 閉校式(第二課程修了書授与)

# 〈第三課程〉

開催日	担当講師等	内容等
5月23日(土)	田中良三(愛知県立大学名誉教授)	開校式 ①「特別支援教育リーダーに求められ ているもの(総論)」
6月12日(金)・16日(火)・ 7月2日(火) ※ いずれか1日		②中学校特別支援学級の見学研修 12(金)水無瀬中·16(火)幡山中· 7月2(火)南山中 8:30~11:30
8月24(月)・25(火)※ いずれか1日		③ジョブスクール見学研修 9:00~12:00 (2日に分かれて)
10月17日 (土)	常滑西小コーディネーター 大橋晴美	④通級指導教室における問題
11月7日 (土)	川上康則 (東京都立青山特別支援学校教諭)	⑤ユニバーサルデザインの授業づくり 13:30~16:30
12月10日 (木)・11日 (金) ※ いずれか1日		⑥瀬戸特別支援学校 体験実習
1月26日(火)・27日・28日 ※ いずれか1日		⑦公教育以外の教育見晴台学園 見学研修
2月20日(土)	山本理絵(愛知県立大学教授) 三山 岳(愛知県立大学講師)	⑧通常の学級における問題点(巡回する立場より) 閉校式(「特別支援教育リーダー資格認定証」授与)

### 3. 成果と課題

### (1) 成果

- ①共催事業として講座を開くことができ、幼・保・小・中・養護学校からの多様なメンバーが参加し、積極的に討論・交流ができた。本講座でのつながりを生かして、日常的に情報交換等の連携を促進することができているのではないかと思われる。
- ②職場では、このやり方でよいのかと不安に思いながら実践していたことも、事例分析等を 通して、子どものとらえ方が確認され、より 深められた。
- ③幼児期から就労の時期までの多様な現場を体験したことで、長期的な視野で子どもの成長発達を捉え、他機関への理解が深まったことから自信をもって活発に事例分析・討論する姿が見られた。
- ④瀬戸市教育委員会やこども家庭課との関係が 深まった。

### (2) 今後の課題

- ①講師や再任用の職員が比較的多い特別支援学 級や通級指導教室と通常学級との連携
- ②子どもの発達障がいだけではなく、親の発達 障がい、虐待や貧困問題と絡んでいるケース がよくあるので、そのような視点からの研修 や諸機関との連携について、さらに深めてい く必要がある。
- ③「特別支援教育リーダー資格認定証」を授与 された方の今後の活躍の場づくり。
- ④来年度以降のリーダー養成講座のプログラム の改善

# 教育委員会・学校現場の立場からの取組と評価

## 瀬戸市立八幡小学校 藤戸 環

# 1 瀬戸市の学校の概要と特別支援教育の現状(1)瀬戸市の学校の概要

- ・人 口 約13万人 (平成27年度4月現在)
- · 小中学校在籍人数 1万593名
- ・小学校数 20 校
- ·中学校数 8校
- ・市立の特別支援学校(肢体不自由) 1校
- ・特 徴・比較的小・中規模の学校が多い
- ・特に小学校の半数が、12 学級以下(特別支援学級を除く)の小規模校
- ・地域による学校規模の差が大きい……適正配 置に向けて統廃合の動きあり



### (2) 瀬戸市における特別支援教育の現状

- ・特別支援学級が小学校 20 校中 16 校、中学校 8 校中 6 校に設置されており、また、通級指 導教室も 7 校に設置されている
- ・地域からの強い要望の元、平成22年4月、 萩山小学校の校舎に併設する形で瀬戸市立特 別支援学校を開校。入学希望者・在籍者の増 加に伴い、平成26年4月、光陵中学校に併 設する形で中高等部を移転した瀬戸特別支援 学校光陵校舎を開校
- ・瀬戸市教育委員会における特別支援教育担当 指導主事の存在……瀬戸市全体の特別支援教

育を統括し、特別支援学校や市内保育園・幼稚園、社会福祉課や近隣大学との連携・協働を積極的に推進(下図参照、H27瀬戸市「特別支援教育の手引き」より抜粋)。

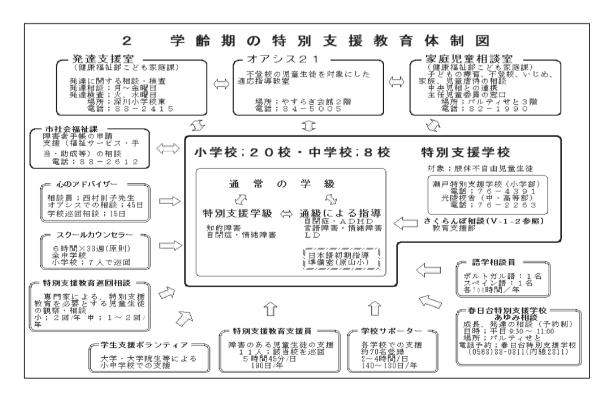
・瀬戸市の特別支援教育を現場で支えてきたベ テラン担任の数多くが退職、担任の世代交代 が進行……特別支援教育の経験と見識を兼ね 備えた専門性の高いリーダーの養成が急務

# 2 愛知県立大学との「特別支援教育リーダー養成プログラム」共同研究事業

- (1) 共同研究事業に取り組むことになった経緯
- ・文科省答申「教育委員会と大学の連携・協働 による現職研修のプログラム化・単位化」の 実現
- ・瀬戸市と愛知県立大学との連携協定……学生 ボランティアの派遣事業・年2回の巡回相談
- ・自前で特別支援教育リーダーを養成する必要 ……山形大学三浦光哉先生の実践をモデルと して

# (2) 募集・応募の実際

- ・誰に受講させるべきか……瀬戸市の特別支援 教育の将来を見据えた視点
- ・年間8講座×3か年のハードルの高さ……教育委員会・校長会・学校現場の協力が不可欠
- ・小学校特別支援学級担任3名、小学校通常学 級担任1名、中学校特別支援学級担任2名、 特別支援学校小学部担任1名が受講(第一課 程)
- ・第二課程で新規募集をするかどうかの問題 ……新規に募集をかけ、さらに小学校特別支 援学級担任2名が参加
- ・第三課程では、新規募集を行わない……経験 の積み上げを重視
- (3) リーダー養成講座の実際
  - ・内容については、前述の通り。
  - ・小中学校特別支援学級の見学については、事 前に校長会に了解を得て実施



# 3 成果と今後の課題

# (1) 受講生の変容

- ・指導スキルの向上……よりよい児童生徒・保 護者との関係の構築
- ・周囲の同僚に対する発言力の高まり……現職 教育における講師など、学校における特別支 援教育の推進者に
- ・保育士・幼稚園教諭・小中学校教諭間の連携 の強化……個に対する支援のつながり・広が り

### (2) 瀬戸市全体の体制の変化

- ・未経験な若い特別支援学級担任等への積極的 なかかわり
- ・瀬戸市特別支援教育研究会におけるリーダー 的立場
- ・瀬戸市特別支援教育推進委員を委嘱……瀬戸 市全体の特別支援教育の推進者へ

# (3) 今後の課題

- ・瀬戸市全体の特別支援教育に対する理解のより一層の進化・深化……校長会・教頭会等を 巻き込んだ取り組みが必要
- ・特別支援教育リーダーをどのように瀬戸市全 体で認知していくか……アピールできる場の 設定
- ・学校においてしっかり機能するコーディネー タの養成が急務……SSW 的な働きを期待

### (4) 今後の共同事業に対する展望

- ・より進化したリーダー養成システムの構築・ 継続……3年間で10人程度ではゆっくりす ぎ
- ・受講生を増やすための働きかけ……自身のス キルアップだけでは不十分
- ・リーダー資格保持者の組織化……大学と連携 しながら、リーダー会としての影響力を発揮 し、瀬戸市の特別支援教育に提言していく
- ・今後のリーダー養成講座のスーパーバイザー 的な役割を期待

# 瀬戸市発達支援室の取組と評価 一療育・保育現場の立場から一

瀬戸市発達支援室 加藤由美子

# 瀬戸市の療育・保育現場の概要と発達支援室の現状

# (1) 瀬戸市の療育・保育の概要

瀬戸市は、出生数年間 900 人、市内には公立保育園 11 園、公設民営保育園 2 園、民間保育園 11 園、私立幼稚園 7 園、単独通園(児童発達支援センター)1 園があり、公立保育園の統廃合や民間委託等により、近年公立園・民間園の対比が逆転している。単独通園(児童発達支援センター:療育機関)は公立で運営されていて、公立の保育園を経験した職員が人事異動で 3 年から 5 年療育に携り、知的障害及び肢体不自由のお子さんが在園している。公立保育園では障害担当を配置し 3 対 1 で統合保育を実施。最近は障害担当園以外の園にも知的障害がみられない重度の発達障害の児が在園しており、必要に応じて加配保育士を配置している。

私立幼稚園には以前から障害児を受け入れている園もあるが、少子化の進む近年になってから障害を持っている児も受け入れ始め、児に合わせた個別的支援に奮闘している園が増えてきた現状がある。

### (2) 瀬戸市発達支援室の現状

瀬戸市発達支援室は、支援室設置当時からスタッフで「お母さんを元気に! 笑顔に!」を合言葉とし、母や子どもたちを元気にするなら「支援者も元気に!笑顔!」をプラス。休園した保育園で事業を実施している。

# 2 愛知県立大学との「特別支援教育リーダー養成プログラム」共同研究事業

# (1) 共同研究事業に取り組むことになった経緯

- ・保育園・幼稚園・通園の巡回療育指導で就学 児対象の場合には、教育委員会と就学先の学 校と連絡し、対象児を一緒に観察し事例検討 に同席してもらうこともできるようになって いる。
- ・学校巡回においても検査や乳幼児期の巡回対 象児で情報提供でき、支援方法の連携ができ ることから支援室職員も参加することが多 く、県立大学とも接点ができ、平成24年秋 に山形大学三浦光哉先生の取り組みを知るこ ととなる。支援室設置以来、教育機関・事業 所等関係機関との連携が大切と常々痛感して いたため、瀬戸市でも幼稚園・保育園の職 員と学校関係者が、ともに学べる機会ができ ることは人材育成には不可欠と当時の管理職 (課長・部長) に意義を伝え、愛知県立大学 の多大な協力を得て、平成25年1月に先駆 的な山形県に視察に出かけることができた。 鶴岡市教育委員会の実践を報告、当市でも鶴 岡をモデルに実施にこぎつけることができ た。

### (2) 募集・応募の実際

・誰に受講させるべきか……瀬戸市の将来を見 据えた視点



- ・年間 8 講座×3 か年のハードルの高さ……現 場の協力が不可欠
- いろいろな課題はあるものの瀬戸市内の幼稚 園教諭・保育士の熱心な思いには自信があっ たため、教育委員会との人数調整を考え、こ ども家庭課とも調整して人材選びをした。
- ・第一課程では公立保育園 6 名・幼稚園 1 名計 7 名で実施
- ・第二課程で新規募集をするかどうかの問題(幼稚園1名では……) 新規に募集をかけ、さらに公立保育園3名・ 私立幼稚園1名計11名で実施
- ・第三課程では再募集せず産休育休で1名欠員 計10名で実施

## (3) リーダー養成講座の実際

- ・内容については、愛知県立大学山本理絵教授 による報告の通り。
- ・第2課程で実施した保育園・通園の見学については、事前にこども家庭課・各園長に了解を得て実施
- ・受講生の見学・研修等派遣についての理解は 各園全職員事前了解・事後報告にて成果発表 を実施

## 3 成果と今後の課題

### (1) 受講生の学び(変容)

・支援関係者の連携を実感……顔の見える、名前のわかる連携



- ・職場における意識改革……乳、幼児期にかかわる専門意識の再認識
- ・各現場における発達障害のある児童・及びそ の疑いある児・保護者への対応
  - ……児・保護者の思いを受け止めた個別的支援の実施

受講生の役割

- ・専門的リーダーとしての自覚……各職場にて 課題提案(話題提供)、後輩育成
- ・後継者育成の担い手……リーダー養成講座やその他の研修等の講師役

### (2) 今後の課題

・受講生の拡充……幼稚園・公立保育園・民間

#### 保育園

子育て支援センター・通園施設

- ・受講経験を活かし活躍できる場の設定 ……養成講座の講師、職場等におけるアドバ イザー
  - リーダー養成講座の継続したシステムの構築 のためには
  - ・愛知県立大学の協力……スーパーバイザーの 必要性
- ・瀬戸市の行政的理解……予算・人材